

## 2020 年度事業 進捗報告書（実行団体）

- 提出日 : 2022年 月 日
- 事業名 : 人口減少化により孤立した集落の関係人口による課題解決プロジェクト
- 資金分配団体 : 特定非営利活動法人宮崎文化本舗
- 実行団体 : 特定非営利活動法人五ヶ瀬自然学校

### ① 実績値

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況 *
コンテンツの海外発信のための英語翻訳の仕組みが構築されるコロナ終息後、外国人が訪れている	オペレーションのマニュアルを作る	マニュアルがある 訪問数 10	2023/3/1	現在英訳の仕組みについてはほとんど完成している。ネイティブの安定的な協力が得られず、コンテンツの質に影響している	3
ホームページや SNS や YouTube などにコンテンツ・情報が定期的に発信され、それを見た人の一定数が行動を起こしている(コンバージョンレートを利用)	投稿数、視聴回数、再生時間、トラフィックソース、チャンネル登録者数、高評価などアナリティクスを使ったデータなど	ホームページ訪問数 2000 回/年 フェイスブック投稿数 24 回/年 Youtube 投稿数 12 回/年	2024/3/1	投稿の数は達成できている。	3

政策提案コンテストの実践活動	提案数／採択数／参画人数、回数	2021 10 案／5 案／のべ 500 2022 10 案／5 案／のべ 500 2023 10 案／5 案／のべ 500	2022/3/31 2023/3/31 2024/3/1	2021 年度の提案の 1 つが、双方の都合によりなくなってしまったが、今年度のスタディツアーより既存の政策に新しいメンバーが加入し、事業の拡大を目指している。	2
<p>「関係人口五ヶ瀬モデル」を住民、地域づくり団体、行政などで協議し定義化・策定する。</p> <p>例えば、関係人口の深化の状態を以下の 3 段階に定義する</p> <p>レベル 1：定期的に集落活動に参加、特産品を購入</p> <p>レベル 2：集落活動の常連客、特産品の定期購入、SNS で情報交換</p> <p>レベル 3：集落活動の企画に参画、特産品の開発や販売に関わる、SNS で情報発信、政策を提案し実践する</p>	「関係人口五ヶ瀬モデル策定協議会(仮称を新規設立)」し合意形成の取れた「関係人口五ヶ瀬モデル」が策定されている。	「関係人口五ヶ瀬モデル」が協議会(行政、観光協会をはじめとするメンバー)、で合意形成が取れており、地域内で理解されている。それをを用いた活動が行われている。行政や有識者から公式に公表される。	2023/3/1	9 月 12 日に行われたワークショップにて、協議会員に「関係人口五ヶ瀬モデル」に対しての合意を得ることができ、活動の趣旨や関係人口五ヶ瀬モデルの意義を理解してもらえた。	2

\*進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

## ② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 <input checked="" type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値
5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
感染拡大を懸念し、スタディツアーをオンラインでの開催とした 関係人口五ヶ瀬モデル策定委員会の際に、マスクの着用や消毒の徹底を行った

## ③ 広報 (※任意)

1.メディア掲載 (TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等)

2.広報制作物等

チラシ、パンフレットの作成

3.報告書等

スタディツアー報告書・現在作成中

## 2020 年度事業 中間評価報告書（実行団体）

### 評価実施体制

内部／外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
外部	①	佐伯浩美	高千穂高校校長
外部	④	大和田順子	同志社大学
外部	② ③	高千穂郷・椎葉山地域住民	
内部	① ④	杉田英治	五ヶ瀬自然学校理事長
内部	② ③④	村上亮介	五ヶ瀬自然学校職員
内部	③ ③	岩谷智友璃	五ヶ瀬自然学校職員
内部	③ ③	小林由明	五ヶ瀬自然学校職員

### A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

#### ① 短期アウトカムの進捗状況（アウトカムで捉える変化の主体→短期アウトカムと置き換えてください）

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
住民と関係人口が継続的に交流している状態	アウトプット④で定義する関係人口の数 交流機会の数	関係人口計 190 名 レベル 1=100 レベル 2=60 レベル 3=30 交流機会 20	2024/3/1	関係人口の数、自然学校が把握している限りでは約 90 人 定義やレベルについては未定であるため、外れてしまう人、新たに対象になる人が出てくる

<p>新規事業創出や新たなネットワーク形成していくことを目的に、本事業を通じて、五ヶ瀬自然学校スタッフが企画力やコーディネート力を身に付け、各団体へ中間支援できる状態になっている。</p>	<p>・従業員のスキルアップにつながる機会の数 ・連携できる団体および集落の数</p>	<p>20回/年 80/ 集落(公民館・地域づくり協議会など)、 行政、観光協会、商工会、商工会議所、NPO、ネットワーク組織、企業、個人商店など</p>	<p>2024/3/1</p>	<p>中間支援を行うにあたってはまだ不十分ではあるが、事務処理、プレゼン、企画立案及びその実行、ミーティングのファシリテーション、等における能力が上がった。 現在、10団体、約35人の個人と連携している。</p>
--	---	---	-----------------	--



① アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」(※任意)

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察
<p>短期アウトカム(住民と関係人口が継続的にかかわっている)が達成される見込みがあるかどうか</p>	<p>短期アウトカムが達成される見込みがある。</p>	<p>関係人口という存在、定義に対して、集落住民が理解を示しており、関係人口と位置付けられそうな人と集落住民が良好な関係を築けている。大学生が多いため、長期休暇である8~9、2~3月に集中しているが、継続的に関わる見込みがある。</p>



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
<p>事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には</p> <ul style="list-style-type: none"><li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある</li><li><input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある</li><li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある</li><li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である</li><li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい</li></ul> <p>と自己評価する</p>	<p>住民と関係人口の関わりについて、ワークショップ内で、関係人口の大まかなレベル分けを行った。その際に、多くの事業所から、関係人口のレベル2以上に該当する人がいると聞いた。関係人口という言葉が周知される以前から継続的に関わり続けている人がいる。どのようにその関係を維持してきたかを取材、考察し、新たな関係人口に対しても継続的に住民と関わっていけるような環境づくりができれば、アウトカムの達成は現実的といえるのではないかと考えている</p>

## B) 事業の改善状況の評価

### 1 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	関係組織との連携は十分か(関係者・組織が事業の全体像や目標、スケジュール、役割分担等について理解し、合意できているか)	連携組織の大部分において合意の形成がなされた。	先日のワークショップにて、関係人口とは何か、休眠預金を活用した事業であること、事業の目的や趣旨について関係者との合意形成がされたが、参加していない組織については事業の説明はしたものの明確に合意されているわけではない。
実施をとおした活動の改善、知見の共有	事業を通して新たなアイデアが生まれたか	新しいアイデアが生まれた。	昨年度より、南山大学の学外学習の中で五ヶ瀬町に提案を行っており、できるかできないかといった枠組みにとらわれない自由な発想が生まれた。また、当該事業所など五ヶ瀬町民との検討の中で、企画の妥当性を確認し、実現可能性の向上を図った。
組織基盤強化・環境整備	組織の体制、事業体制は事業目標に対して適切かつ十分か	適切な事業体制で行うことができる	スタディツアーを終え、新たな提案が生まれることで事業数が増え、職員の手が回らないといった懸念があったが、昨年度からある既存のチームと一緒に活動することで継続性や事業の質を高めると同時に、職員が管理する数を抑えることができた。

### 2 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

南山大学生がすすんで行動し、若者主体の五ヶ瀬を盛り上げる活動がされている

関係人口五ヶ瀬モデルの作成にあたって、住民の理解を得られ、前向きに考えてくれている

小人数体制であるため、スキルアップの機会が多い

### 3 事前評価時には想定していなかった成果

関係人口が新たな関係人口を呼び込む可能性が大いにあることに気づいた



### 4 事業計画の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている





事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っている</p> <p>と自己評価する</p>	<p>事業計画自体はほとんど変わっていないが、実践活動の中で提案数が増えるため、自然学校の方から活動ごとに人員を割くことが厳しいと判断した。そのため、既存の提案、グループに新規メンバーという形で加入し、グループ数はそのまままたは1つ程度の増減に抑えることにした。自然学校の組織体制としても、1グループあたりの事業の大きさとしても、こちらの方が成果が出るのではないかと考えている。</p>

5 中間評価結果を踏まえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

スタディツアーが終わり、関係人口の方はある程度落ち着いたため、現在停滞し気味な英語での情報発信を重点的に行いたい

添付資料

活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3～4枚程度）



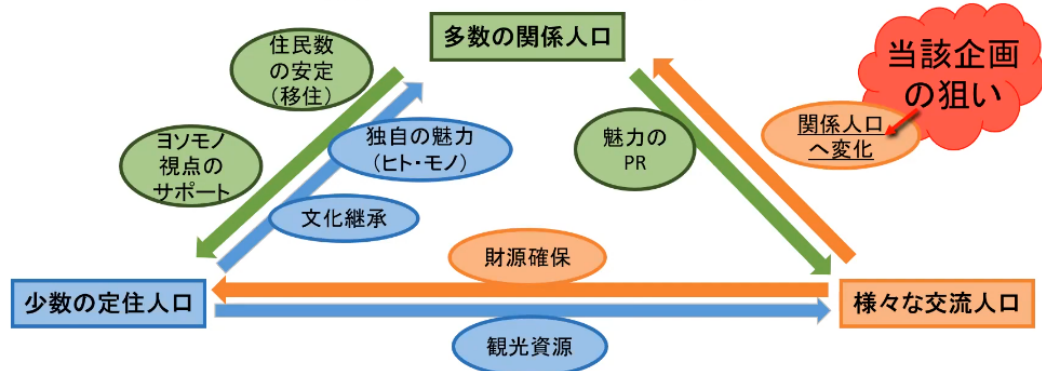
昨年度提案の実戦活動



スタディツアー①

2. 当該企画の最終目的

# 持続可能な中山間地域の 新しいビジョン



※都会的な発展を目指さず、人と人のつながりによって持続可能となる地域づくり



スタディツアー②

スタディツアー③